

2) 河川域

河川域における動植物の生息・生育環境は河川形態、河床勾配、河床材料、瀬と淵の分布状況、河川植生、河岸の地形などと密接な関係があり、これらにより河川域における動植物の生息・生育環境としての機能が異なっているもの考えられる。

川辺川流域の河川域における動植物の生息・生育環境を図 2.1.5.3-2 に示す。

河川域の典型的な動植物の生息・生育環境は、山麓を流れる川、山地を流れる川、溪流的な川、源流的な川及び止水域の 5 環境に区分できる。

「山麓を流れる川」は、川辺川の山口谷川合流点より下流で、河床勾配は比較的緩く、河川沿いには低地がみられる。流路の上空は完全に開けており、広い間隔で平瀬や早瀬が連続している。河岸にはツルヨシなどが生育し、ヤマセミ、セグロセキレイ、オйкаワ、ドンコなどが生息している。

「山地を流れる川」は、山口谷川合流点から椎原にかけての川辺川や頭地から平瀬にかけての五木小川で、山岳地形を呈し、河川の上空は開け、山腹を刻む溪谷を流下する。河岸にはツルヨシやネコヤナギが生育し、ヤマセミ、セグロセキレイ、ヤマメ、タカハヤなどが生息している。

また、「溪流的な川」は、椎原上流の川辺川、平瀬上流の五木小川あるいは川辺川に流入する支川で、河岸の樹木が河川の上空を覆い、河川の所々には小滝があり、早瀬と淵が多く分布している。「源流的な川」は河床勾配が急な支川で、階段状の小滝が多く、河岸の樹木が河川の上空を完全に覆っている。

川辺川や五木小川、流入支川には取水堰や砂防ダムが点在しているため、その背水部は「止水域」となっている。

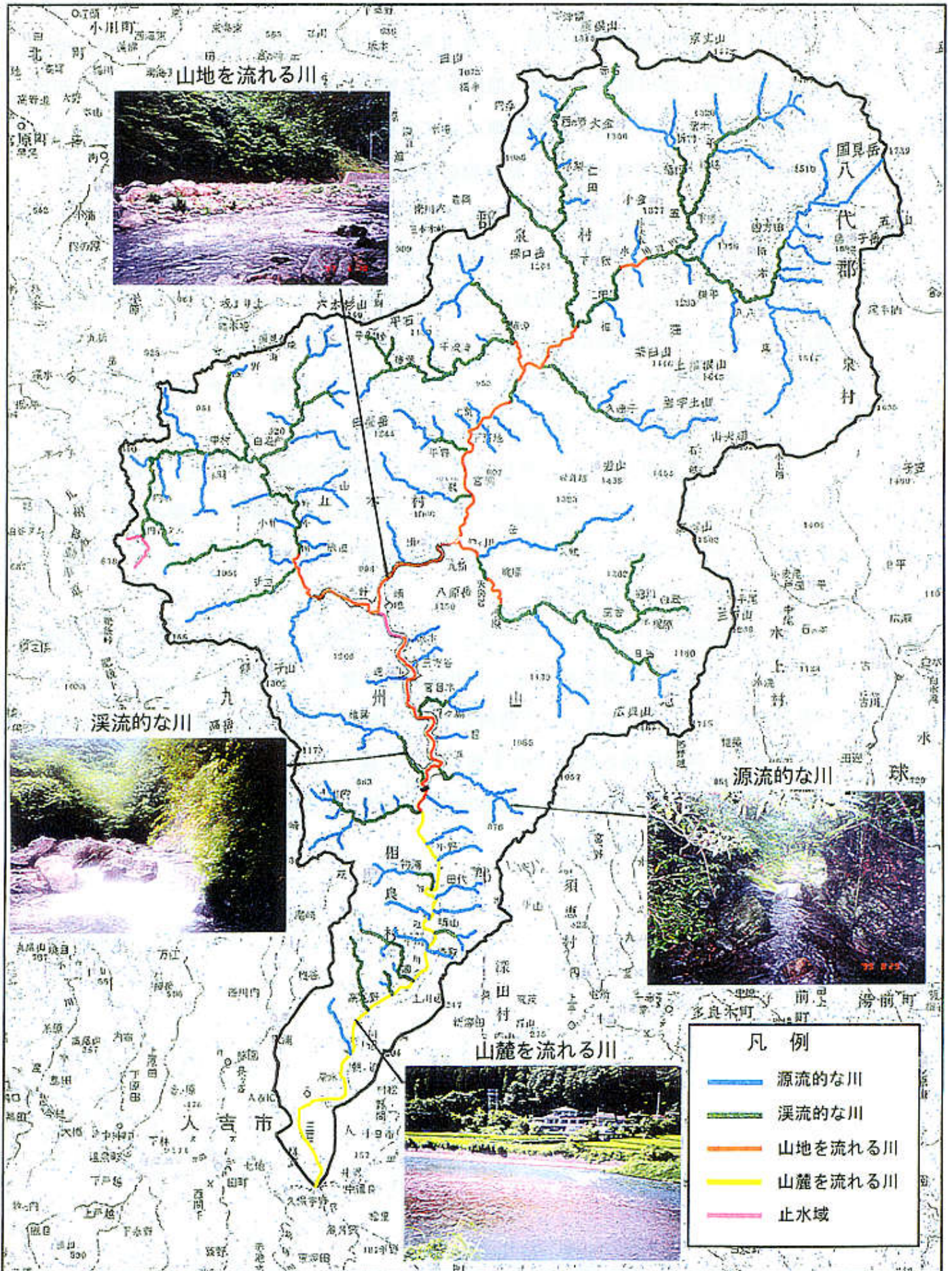


図 2.1.5.3-2 河川域の生息・生育環境